

第28回環境安全委員会 議事要旨（案）

1. 開催日時 平成25年10月22日（火）10:00～12:00
2. 開催場所 ホテルイースト東京3階 永代の間
3. 出席者 中杉委員長、佐古委員、村山委員、岩崎委員、小安委員、木下委員、
榎本委員、秋田委員、綾部委員、堀田委員、山根委員（順不同）

4. 議事（公開）

【議題1】東京PCB廃棄物処理施設の操業状況について

資料1に基づきJESCOより説明、質疑応答があった。主な意見は以下のとおり。

（委員）水熱混合管の点検結果について、腐食防止対策で流速を上げ、肉厚を厚くし混合部の長さを長くしたとのことだが、もう一步進んで耐食性の強い材料、今以上の物の検討はしていないのか。

（JESCO）メーカー（三菱重工）の回答では、今以上のものはないとのこと。コストを考慮しなければ無くはないが、経済性も踏まえ最適なものを使用している。

（委員）腐食場所について、No. 1とNo. 2水熱は苛性ソーダが溶けた後の熱水によるアルカリ腐食で、No. 3はPCBが入った後なので塩素腐食で腐食形態が違うと思われる。材料選定に当たって考慮したのか。

（JESCO）材料は一体物であり、塩素腐食、アルカリ高温腐食の両方に強い材料を選定している。No. 3水熱の腐食場所は元々肉厚が薄いため寿命が早い。

（委員）配管の溶接部の犠牲陽極は、ラボテストを行った上で使用しているのか。

（JESCO）テストはしてない。理論的な考えによるもので、設備的にもテストは難しい。

（委員）評価は何時ごろになるのか。

（JESCO）11月から12月にかけて調査する。

（委員）設置してからの期間はどのくらいか。

（JESCO）今回の定期点検で設置した。約6ヶ月になる。

（委員）作業従事者の労働安全衛生 工事会社の労働災害で、これまでに何回くらいの休業災害があったのか。

（JESCO）昨年7月に加熱カゴ（約80kg）が台車から落下し右足首負傷があった。また、その2年ほど前にコンデンサ解体での打撲があり、半年ほどたって骨にヒビが入っているとのことで休業になった。他は軽微な労災になる。

（委員）製造会社の関連会社とのこと。TEOやTPTについては比較的訓練を行っているので心配は少ないが、緊急性の高い夜とか夜中はJESCOとして監視が難しいところもあると思う。最大限緊張して対応していただきたい。

（委員長）工事会社はこの現場を良く知っていると理解してよいのか。

（JESCO）この設備を作った会社の二次下請け作業員が被災した。前日の調査で工事を行うことになったが、作業員の手配が中々つかず緊急となった。

（委員長）親会社をしっかりと指導し、下に伝わるようにしていただきたい。

（委員）処理の累計進捗率で、トランス類52.3%、コンデンサは34.9%とあるが、

登録数量が今後伸びることはないのか。それとも毎年1割程度は増えているのか。そのような状況であれば、それで最終年度を決めてよいのか。

(J E S C O) 未登録の機器はある。どの程度かは、使用中等で出てこないこともあり、詳細はわからないが、再登録された後は増えていない。

(委員長) これは東京事業所だけの問題ではなく、全体の問題だと思う。

(J E S C O) 各事業所ともトランスの登録台数は横ばいにある。コンデンサは各事業所で年間100台程度増加している。

(委員長) 色々問題はあがあるが、これは環境省としてしっかり計画を立ててもらいたい。

(委員) P C B廃棄物の運搬途中に発生した交通事故について、今までは起きてないところがあるが、運転手が車高を分かってないとは、自分がP C B廃棄物を運んでいるという意識がなさ過ぎる。今後もこういう事故があると思うのでしっかり教育をしてほしい。ドライバーの意識改革を徹底して欲しい。

(委員長) 近くにアパートも写っている。トラックの中身はP C B廃棄物、住民は不安になる。このところをもう少し丁寧に考えていかななくてはいけない。

(委員) 作業環境測定結果について、一般環境については問題ないが、今後処理量が増えてくると作業環境の問題が出てくると思う。これについては、何か基準、目安になるものがあるのか。また、緊急連絡訓練について、良い訓練だと思うので続けてほしい。どのくらいでレスポンスがあったのか。

(J E S C O) 作業環境については、第1管理区分が $10 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 未満、第2管理区分が $10 \sim 15 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 、第3管理区分 $15 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以上になる。第3管理区分の場合は、第1管理区分まで下げる努力義務があり、対策で示した改善に取り組んでいる。緊急時通報訓練については、ほとんどは30分以内、60分もあれば十分連絡が行き渡る。

(委員) H 2 5年度は処理速度を速めたが、今の速度は100%か。まだ、余裕があるのか。それは何%くらいなのか。

(委員長) それについては資料2の改善計画の中で説明になる。表4の排水中D X N s が $0.33 \text{ pg-TEQ}/\text{l}$ とあるが、これは何時のデータか。

(J E S C O) 8月19日(採水日は7月24日)

【議題2】東京事業における処理促進に向けた設備改造について

資料2に基づきJ E S C Oより説明、質疑応答があった。主な意見は以下のとおり。

(委員) 将来の処理量については何時決めたものか。

(J E S C O) 2月の委員会の改善報告の中で説明をさせていただいた。まだ登録されていないものも含めて水熱の状況を加味して改造後の年間処理量を示した。

(委員) H 2 5年度のトランスは748tで目標処理量は達成している。水熱分解装置がフル稼働に近いとかあるが、地元区としては、目標をもっと高くしてほしい。

(J E S C O) 7月～8月の水熱負荷は90%であり、トランスの解体は上手く云っているが、コンデンサ処理の達成はこれから。水熱処理は、解体とは別に抜油した

ものを処理した結果であり、解体には時間がかかるので限界に近い。

(委員長) 水熱をもう一つ増やせば処理量は増えるが、その期間は処理が停止する。

90%を100%には分かるが日々の変動もあり90%が妥当だと思う。

目標はあくまでも改造のためであり、運転のためのものではない。

(委員) 東京事業所は何時まで稼働するのか。H35年までの後10年と聞いているが、この間、2020年(H32年)に東京オリンピックがあり、バイク会場等で世界中が注目する。H35年までに完了としてほしいので質問した。

(委員長) この後に環境省検討会が開かれ、施設間でのやりとりが決まっていく。全体としては、大改造をするのか、その大改造で停止するだけの効果があるのか。水熱を最大限使う用途は出来ており、コンデンサ処理は一部を外に出す考え。

(委員) 水熱は90%の稼働とのこと。この状況で廃粉末活性炭が入ってきて大丈夫か。

それにより、PCB処理への影響はどのくらいになるのか。

(JESCO) 廃粉末活性炭の受入量は、1日当りドラム缶1~2本と考えている。現在の水熱分解設備の負荷は9割近いが、残りの分で吸収できると考えている。

(委員) 大改造は別として、この装置の運転能力を上げてほしい。運転条件を変えることにより処理量を上げるとか、例えば滞留時間を短くするとか工夫することでアップできないか。

(JESCO) 今日は、液回しを中心に説明させていただいた。パワーポイントの中にもあるが、液の有効な使用方法、日常的に無駄な使用はしない改善を現在も努めている。先生がおっしゃる対策は十分必要だと認識している。

(委員長) 先生の質問は、水熱の運転方法を変えることにより、処理量を2t以上に上げられないかということだと思う。

(JESCO) 水熱設備の設置認可では、合計で日量2tとしている。アセスも受けており、これを逸脱することは出来ない。

【議題3】 東京事業所における二次廃棄物等（低濃度）の搬出について

資料3に基づきJESCOより説明、質疑応答を行った。特に質問は無かった。

【議題4】 その他

その他として、環境省より以下の報告があった。

(環境省) 環境省として基本計画の見直しについて検討を進めている。状況の整理が出来きた。可及的速やかに国としての案を自治体に説明するように最終調整している。次回の会合時には国としての考え方を示し、ご意見をいただきたいと思っている。考え方は、榎本委員からありましたが、東京も含め全国の処理事業所で1日でも早くPCB処理が終わるよう、そのためにそれぞれの設備の特徴、優れた長所を生かすことによりお互いにメリットを得られる計画案を示したいと考えている。

(委員長) 国の検討が加速して進め、それが纏まったらこの委員会でご意見をいただくことになる。

— 以上 —